

図書館だより

さらば、少年の日よ

図書館長 村田 和穂



昨年秋の文化祭（第3回ありタムフェスタ）で、本校吹奏楽部の演奏を聴いた。演奏曲目に映画『銀河鉄道999』（1979年劇場公開）の主題歌があり、期せずして懐かしい思い出に浸ることになった。司会を務めた学生が「原作者の松本零士は宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に触発されてこの作品を描きました」と説明するのを聞いているうちに、この映画に出逢った「少年」だった頃の記憶が鮮明によみがえってきた。この映画を映画館で観たのは中学2年の夏休み。あまりの感動で放心状態になり、居ても立ってもいられず夏休みが終わるまでにさらに2回、合計3回映画館に足を運んだ。これほど夢中になれたのは、主人公の星野鉄郎が自分と同じくらいの年齢で、鉄郎の夢や憧れ、怒りや悲しみに素直に感情移入できたからだろう。そして鉄郎と同じように、旅の同行者である謎の美女メーテルに恋をした。アニメーションの技術も当時としては完成度が高いのだが、何より音楽に痺（しび）れた。当時人気絶頂だったゴダイゴの楽曲を中心にしたサウンドトラックが秀逸で、映画を観た後、半年ばかりは飽きることなくLPレコードを繰り返し聴き、映像とセリフを頭の中で反芻していた。エンディングに流れる主題歌もさることながら、999号が地球を離陸する場面に流れる挿入歌「テイキング・オフ！」が隠れた名曲で、その歌詞にある「君だけを待ってる何かがあるはず」というフレーズにどれだけ心震わされ、励まされたことか！

この劇場版アニメ『銀河鉄道999』は、間違いなく私の人生に決定的な影響を与えた映画である。というのも、この映画を観てから宮沢賢治の童話を片っ端から読むようになったからだ。どの作品も面白かったが、肝心の『銀河鉄道の夜』だけは作者が何を言いたいのかさっぱりわからなかった。その後の再読で、この列車の乗客は主人公のジョバンニ以外全員死者であることに気づき、それならこれは「幽霊列車」ではないかと戦慄を覚えた（興味深いことに、沈没したタイタニック号の乗客もこの列車に乗る。賢治は国外の大惨事にも心を痛めていた）。でも、今ならよくわかる。宮沢賢治は読者を、そして自分自身を、怖がらせるためではなく、安心させるためにこの物語を書いたのだ。人は死んでも死なない、永遠の生命がある、ということを伝えるために。これは、『銀河鉄道999』における鉄郎の旅の目的、すなわちアンドロメダ星雲のある星に行き機械の体を手に入れ永遠に生きること、に表面上は似ているかもしれない。しかし、鉄郎は旅の途中でこの目的に疑問を抱き、ついには次の言葉を口にする。「永遠に生きることだけが幸せじゃない。限りある命だから人は精一杯頑張るし、思いやりや優しさがそこに生まれるんだと、そう気がついたんです」。中学生の私はこのセリフに猛烈に感動した（だから今でも一語一句覚えている）。これは宮沢賢治のすべての童話に通底するメッセージと重なる。

今回の表題、「さらば、少年の日よ」は映画『銀河鉄道999』の最後のナレーションからの引用である。3回目の視聴の際、それまでの2回は耳を素通りしていたこの言葉がなぜか切々と胸に迫ってきた。映画館を出た足で、何かに導かれるように近くの書店に行き、新潮文庫の『銀河鉄道の夜』を手にとった。今振り返ると、あの日、私は無意識のうちに「少年」時代に別れを告げようとしたのだと思う。中学2年という多感な時期に、この素晴らしい映画に出逢えたことを心から感謝している。



私のイチオシ

図書情報管理部・部員

藤崎 祐二（一般教育科・国語）



花粉症のため、マスク着用中(笑)

『鏡子の家』（三島 由紀夫 著）

三島由紀夫全集第11巻 新潮社 昭和49（1974）年

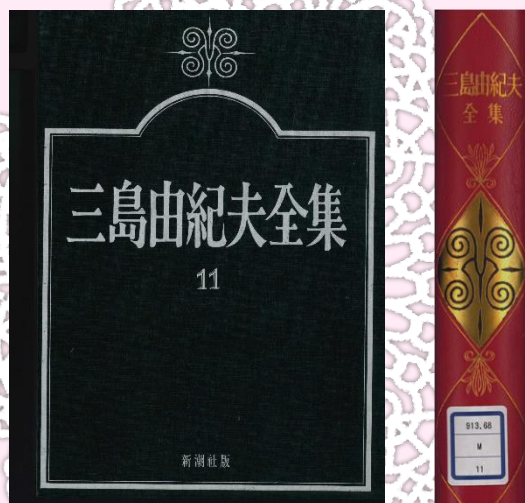
この物語は昭和30年前後、朝鮮特需後の不景気を経て、高度経済成長に突入しようという目まぐるしい時代を舞台に、資産家の令嬢鏡子の家に集う4人の若者の、それぞれの生の軌跡を描いた作品です。

私が『鏡子の家』をはじめて手に取ったのは、おそらく大学4年生の頃で、偶然にも作中の主人公たちと同じくらいの年齢でした。しかし、当時の私は、文豪の作品には目を通しておきたいというくらいの意識しかなく、あまり物語に共感することはありませんでした。

それから、長らく本棚の奥で埃をかぶっていたのですが、30代も半ばにさしかかった頃、ふと気が向いて、久しぶりに読み返してみることにしました。そこに描かれていたのは、今まさに大人なろうとする若者たちの葛藤の物語で、かつて自分も駆け抜けた青春の記憶が鮮やかに蘇り、思いがけない感動がこみ上げてきました。物語の終盤、それまで若者たちのたまり場となっていた鏡子の家は、次第に賑わいを失い、そしてある種の堂々たる終焉を迎えます。青春の終わりを高らかに宣言する鐘の音が響き渡るような、余情あふれる幕切れに、心を揺さぶられました。

主人公たちと同じ年頃に読んでも琴線に触れなかった物語なのに、なぜ今になってこんなにも心を揺さぶられるのだろう、と不思議に思ったものです。そこで、作品について軽く調べてみると、面白い偶然に気がつきました。三島がこの作品を書いたのは34歳の時で、再読当時の私と同じ年頃だったのです。そして、三島はこの作品について、「これまでも青年を書いてきたが、いずれも自身が〈青年を十分に卒業していない〉時代に書いた失敗作だった」とし、「今度は自身が〈通りすぎた時代を卒業した目〉で描いてみた」と述べています。なるほど、私自身が、作者と同じ目線で青春を振り返ることができる年齢になっていたことが、この作品にぴったりとはまった要因だったのかもしれない。

皆さん（特に4、5年生）は、この作品の主人公たちと同じく、今まさに大人への階段を駆け上がろうとする過渡期にいます。生きた時代は異なりますが、同じ若者として共感できるものがあるかもしれません。是非、若い時の感性でこの作品を読んでみてください。そして、30代半ばになって、もう一度読み返してみてください。今の皆さんは、どのような感想を抱くのでしょうか。また、青春を懐かしく思い出すような年齢になった時には、どのような読後感を得るのでしょうか。ぜひ感想を聞かせてください。



専攻科生より本科生に薦める1冊の本



『私は私のままで生きる
ことにした』

キム スヒョン 著
吉川 南 訳



7A
本梅 伍乃

この本を読むきっかけになったのは、BTS（防弾少年団）のジョングクが本書を愛読していることがSNSで話題となっていたからだ。また、本を読むことが苦手な私でも読むことを楽しめた1冊だった。なぜなら、箇条書きの横書き、短文メッセージというのが、TwitterなどのSNSを連想させ、時々登場する愛嬌のあるイラストが、Instagramを連想できるため、携帯依存症の私にとってとても読みやすかった。

この本を書いた筆者によれば、育った過程、環境の中で、よく考えてみると矛盾している考え方が普通になってしまい、劣等感や「こうするべき」「世間ではこう思われる」という切迫感に苦しんでいる人は少なくない。こういった社会的な習慣や個人より集団を大事とする風潮が当たり前になっている考え方を変えたいと願っており、中国・韓国・日本でみられる集団型ではなく、欧米などの個人型こそが他者を尊重し、一人一人が幸せに生きていけると主張している。

私はこの本を読む前は、21年間生きてきて自然と身に付いてしまった周りに合わせる、相手を優先することばかりに気を使ってしまう悪い癖などに「そんなことしなくていいんだよ」と言ってくれたのがこの本だった。また、タイトルのように周りにつられず『私は私のままで生きよう』と考えさせられるような本でした。学生生活が終わるという時期にこの本に出会えて本当に良かった。しかし、会社や社会では、きっと自分の失敗を責める人、悪口を言う人とかパワハラがあって、そんな時に自分自身が自信を持つのは難しいだろうなとは少し将来を考えて思った。そんな生きにくさをなんとなく感じた時に読む本だと思う。もし、今、高専生活や何かになんとなく生きにくさを感じている人がいたら、この本を手にとって読んでみてください。

Irresistible
The Rise of Addictive Technology and the Business of Keeping Us Hooked
『依存症ビジネス』のつくられかた
僕らはそれに抵抗できない

アダム・オルター Adam Alter
ダニエル・ピンク
マルコム・グラッドウェル
アダム・グラント
アリアナ・ハフランド
世界中が絶賛した話題の書、ついに上陸！
スマホ、フェイスブック、インスタ、ネットフリックス、ゲーム、メール……
新時代の依存症「行動経済学」の権威。

『「依存症ビジネス」のつくられかた

僕らはそれに抵抗できない』
アダム・オルター 著
上原 裕美子 訳



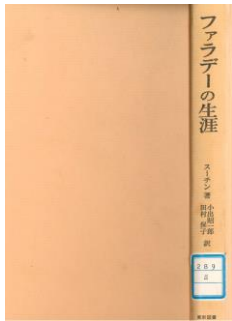
7I
村崎 陽弥

皆さんはスマートフォンを一日にどれくらい使いますか？或いはパソコンを持っている方は？電子機器によって得られる娯楽は今や「麻薬レベル」と称されるまでに発展しました。そしてこれからも間違いなく。麻薬と聞いて怪訝な顔をされる方もいらっしゃるでしょう。しかし私たちがゲームをしている、或いはSNSでやり取りすることの脳への作用は麻薬のそれと非常に類似しているのです。なんとも恐ろしいことです。

さて、この「電子ドラッグ」とも言うべきコンテンツは、当然のことですが「そうなるように」設計されています。企業としても、利益を上げなければならないのですから顧客が離れない、離れられないコンテンツを扱うことは非常に合理的です。もはや依存としか思えないほどに熱狂的な顧客は企業にとって最高の利潤（「カモ」）となるでしょう。その顧客の生活、健康、財産、人生を搾取することで得られる利益は莫大ですから、皆々様はこれを求めて開発を進めるでしょう、当然です。

私たち消費者はこれに対してどのように接すれば良いのでしょうか。その答えを授けてくれるわけではありませんが、それを考える材料となる様々な視点がこの本には記載されています。本書には電子機器以外にも「こんなものまで依存を起こすの？」というような事例が多数記載されています。ギャンブル、ゲームを初めマラソン、目標、等々…。「優秀な」脳を持つ生物、人間として生きる上で向き合わなければならない依存の入り口を若いうちに知っておくのはいいかがでしょうか？

或いは、皆さんが開発者となってこれを活用する日が来るかもしれません。その時は…誰かの人生を破綻させないくらいに活用して頂けると幸いです。



『ファラデーの生涯』
スーチン 著
田村 保子・小出 昭一郎 訳



7E
西村 勇輝



『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』
村上 春樹 著



6A
大村 龍平

この式を見たことあるだろうか。

$$\oint_C \mathbf{E} \cdot d\mathbf{s} = -\frac{d}{dt} \iint_S \mathbf{B} \cdot d\mathbf{S}$$

これは“電磁誘導の法則”と呼ばれる電磁気学における重要な現象の一つである。今日、電気は私たちの生活において必要不可欠なものであるが、この電磁誘導の法則が電気を生み出す発電機の基本原理となっている。この電磁誘導の法則の発見者こそが、今回紹介する本の主人公であるマイケル・ファラデーである。ファラデーは、有機化学に登場するベンゼンの発見をはじめ、塩素の液化、ファラデー効果の発見、反磁性の発見などノーベル賞クラスの発見を数多くあげている大天才である。

現在、パソコンやスマホなどの無線通信技術、ICカードにおけるデータのやり取りやIHクッキングヒーターなどの技術は電磁気学がベースとなっている。電磁気学理論を作ったのはマクスウェルであるが、ファラデーはその理論を作る土台になった現象を発見し、今日の電磁気学の基礎を確立した人物である。驚くべきことにこのような素晴らしい業績は、独学で学歴と全く関係のない鍛冶屋の息子によって成し遂げられたという点である。いろいろと試行錯誤を繰り返した結果、偶然にも発見したのが、ファラデーの電磁誘導の法則である。

われわれが豊かな生活を送れるようになったのは、ファラデーら物理学者の業績によるものである。工学を学ぶ私たちは、彼らが作り上げた理論を応用し、技術者として社会に貢献していかなければならないだろう。

「アカ」「アオ」「シロ」「クロ」そして「つくる」は、高校一年生の夏のボランティア活動がきっかけ仲良くなった。5人は、お互いがお互いを補い合い必要とする、一人として欠けてはならない「乱れなく調和する共同体」を成していた。しかし、大学二年生の夏を前にして、田崎つくるとは唐突に、理由も分からず名前に色を持つ4人に見限られてしまう。それから16年が経ち、ことの真相を明らかにするため、彼が交際中の木元沙羅の勧めもあって、かつての親友に逢いに行くことに、、、

人と人とが出会い、関わり、別れていく。一期一会と言ってしまうえば聞こえはいいが、その一つ一つの世界には、どんな言葉でも説明するのが難しすぎるくらいに複雑な事情が存在している。本作は、この人と人との繋がり、の複雑さについて深く描写されている。東京の鉄道会社に勤務する36歳独身の田崎つくるとを主人公に描かれる物語で、魔法や超能力といった類のSF小説ではなく、寧ろヒューマンドラマやミステリーのようなリアルで人間味のあるお話である。

私自身、小説、特に本作のようなフィクション小説を手にとって読むことが多い。リアルではないがリアルに近いそれは、登場人物の心理描写を的確に捉えていることが多いように思う。小説の中だけでも、世の中には登場人物の数だけ異なる考え方があると実感できる。この異なる考え方が絡み合うことで生まれるケミストリーは、読んでいて心地よくさせてくれるものもあれば、不快にもさせてくれる。このような情動を与えてくれる小説がたまらなく好きなのだ。

その代表的な一冊として今回はこの作品をお薦めしたい。この本を読んで、あなた自身が何かを感じられるのであれば、その感じた何かを大切にしたい。



『きまぐれロボット』
星 新一 著



6M
竹下 旺希

こんにちは 私が推す本は、星新一著「きまぐれロボット」です。短編SF小説、ショートショート集です。1話4～7ページで完結する36個のお話が載せられています。毎日授業 課題 テスト 部活 研究 アルバイトなどで忙しい高専生でもスキマ時間に1話3分でサクッと読むことができます。次にこの本に載っているいくつかの話を紹介します。

「きまぐれロボット」

博士はなんでもできる優秀なロボットを発明し、お金持ちのエヌ氏に譲ることにした。エヌ氏は喜んでロボットを連れ、別荘に出かけた。最初は従順に働いていたロボットだったがやがて命令を聞かなくなり…

「悪魔」

エヌ氏は氷が張った湖で釣りをしていた。ある時、古いツボを釣り上げる。開けると煙が立ち上がり、そばに色の黒い小さな男が立っていた。男は自らを悪魔だという。信じられないエヌ氏は、ならばお金を与えてくださいと言う。悪魔は金貨を出した。エヌ氏は大喜びでもっと金貨を出してくださいと悪魔に頼むが…

「ネコ」

エヌ氏はペットのネコを溺愛していた。ネコの好物を研究し毎日食べさせた。また少しでも元気をなくすと医者と呼び寄せた。ある時エヌ氏の家に宇宙人が現れる。あまりの衝撃にエヌ氏は気絶してしまう。そして宇宙人はネコに近づき、テレパシーで会話を始め…

続きは本で確かめてみてください。星新一さんが書く話は短いながらも予想がつかない展開、そして衝撃の結末が待っており、退屈せずあっという間に一冊読破することができます。それどころか何回も読み返してしまう魅力があります。中には皮肉が効いた話、教訓めいた話もあり、はっとさせられます。登場人物も個性的で宇宙人、強盗、博士など様々な人物が出てきます。とにかく面白いです。この本の所在は、図書館の学習閲覧室の一番奥、文庫コーナーです。ラベルは「文庫/Ka / ほ3-2」です。ぜひ読んでみてください！



『マカン・マラン
二十三時の夜食カフェ』
古内 一 絵 著



6I
田口 璃音

私がおすすめする本は「マカン・マラン~二十三時の夜食カフェ~」です。この物語は、大まかにいうと、様々な悩みを抱える人々を、ドラッグクイーンであるシャルが優しさと心温まる料理で解決していくというものです。ドラッグクイーンという名称については、多くの人が知っているであろう別の名称も存在しますが、その名称を使うとドラッグクイーンに怒られますので注意してください。ドラッグクイーンという単語に聞き覚えが無く、気になった人はこの本を手にとってみてください。序盤でそれについて説明されています。

私がこの本の中で特に好きな話は、第2話の「金のお米パン」です。この話で登場する悩みを抱えた人物は、中学生の少年です。少年の抱える悩みを解決していく過程も、少年に対して優しく語り掛ける言葉もよく出来ているように感じました。具体的な悩みの内容や解決方法などは、紹介を控えますが読んで損したと思うことは間違いなくないでしょう。

私がこの本をお勧めする理由は、普段読書をしない人でも比較的読みやすい本になっているからです。実際、私はこの本を手にとってみる前は、まったく読書をしない人間でした。そんな人間でも最後まで楽しく読み終えることができる本になっています。この本は、全4話構成になっており、1話あたりのページ数はおよそ60ページです。1話ごとに物語は完結するので、読み止めるタイミングも計りやすいです。また、物語そのものにも専門用語や複雑な言い回しなどは少ないので、知らない単語が出てきて読書の進行を妨げることはないでしょう。



『シャドウ』
道尾 秀介 著



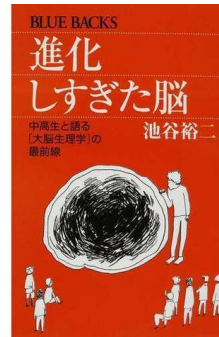
6E
牛川 和哉

この物語の筆者は、どんでん返しの作品を書くのが非常に上手な作家です。どんでん返しを期待して読むのはあまりよくないですが、穿った読み方をしても騙されてしまうはずで。以下、簡単なあらすじをご紹介します。

主人公である小学生の鳳介は、母と病院勤務の父と暮らしていましたが、ある日母がこの世を去ります。父と二人だけの暮らしが始まって数日後、次は幼馴染みの亜紀の母親が自殺を遂げることになり、さらには亜紀も事故に遭ってしまいます。鳳介は様々な不幸に見舞われながらも、父の教えの許、精神的に成長していくのですが、それと同時に不可解な現象を体験することとなります。これらの事象にはどんな繋がりがあるのか。父親はどう関連するのか。“シャドウ”の意味を知ったとき、それらがわかるかもしれません。

この話は叙述トリックという、読者にあえて情報を伏せて勘違いさせていく形式で物語が進んでいきます。叙述トリックは本来、終始1人の視点で進み、それゆえ読者を騙すことが可能になりますが、この物語は5人の視点からなっています。多人数視点となれば見えるものが多くなり、どんでん返ししにくくなるのが一般的ですが、多人数視点ゆえに騙されてしまうことでしょう。ただし、この物語は単なるミステリーというわけではなく、ハートフルな一面もあります。

前述の通り、鳳介には多くの不幸が降りかかってきます。鳳介は小学5年生ながらそれらを真摯に受け止め、理性的に解決を図り、同じように不幸に見舞われた幼馴染みに対し懸命に寄り添おうと努力します。そんな主人公に私は胸を打たれてしまい、その優しさには心が動かされました。ハートフルとどんでん返しが共存したこの作品を、ぜひご覧ください。



『進化しすぎた脳』
池谷 裕二 著



6C
西山裕貴

みなさんは「脳」にどのようなイメージを持っているのでしょうか？

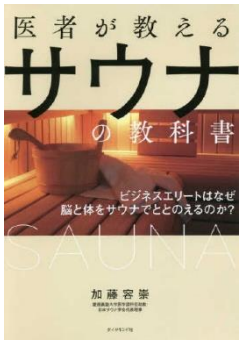
記憶するところや何かを考えるとところといったイメージを持つ人もいるでしょうし、なかには「脳が感情を作る」「人は脳の力を完全に使いこなせていない」といったことを聞いたことがあるかもしれません。

この本では、脳の中でも大脳と呼ばれる部分に焦点を当てて説明してあります。「脳について書かれた本」と聞くと難しいイメージがあるかもしれませんが、この本はもともと高校生向けに行った講義を書き起こしてあるため、高専の1、2年生で習う程度の知識があれば十分に理解することができます。

5章構成になっており、脳とは何かどんな仕事をしているのか、脳科学から見た「心」や「感情」の話、どうして私たちは完璧に物事を覚えられないのかといったことが書いてあります。「ネズミをリモコンで思い通りに動かせるようにした研究」や「動くものだけが見えなくなった人の話」「事故のせいで性格が完全に変わってしまった話」などちょっと衝撃的な話もありますが、非常に面白くわかりやすい内容となっています。

私はこの本の中で「記憶はあいまいでないといけない」というのに衝撃を受けました。あえて詳しくは述べませんが、あいまいさが役に立っているというのです。なんでも完璧に覚えられたら試験のたびに苦労する必要なんかないのにそれではダメなのだそうです。

この本を読んでみて自分の脳についてもっと理解してみませんか？あなたの「脳」についてのイメージが変わること間違いなしです。



『医者が教えるサウナの教科書
ービジネスエリートはなぜ脳と
体をサウナで整えるのかー』
加藤 容崇 著



7A
大仁 一輝

今回、私が紹介したいのは加藤容崇さんが書かれた医学的なサウナの解説書・サウナ愛に溢れた良書になります。日本では今空前のサウナブームが起きているのをご存知でしょうか。サウナ×キャンプ、サウナ×音楽、サウナ×グルメなど楽しみ方の幅が広がり、芸能人やアスリートなど著名な方々の中にもサウナ好きを公言する人が増えました。私自身、温泉に行った時のみサウナを利用していましたが、この本を読んでからは週一で行きたいと思うほどサウナの価値を感じました。というのも、サウナには肩こりや腰痛、眼精疲労が和らぐ、見た目が良くなる、肌がきれいになって痩せやすい体質になるなどといった美容的なメリットがあります。加えてサウナに入ると集中力がアップする、アイデアが湧いてくる、睡眠をコントロールできるなど、学力UP・ビジネス力UPに効く一石八鳥ものメリットがあります。しかもサウナは非常に即効性が高く、さらに長期的な免疫力アップ、うつ病予防、認知症のリスクが低減するなど数々の健康上のメリットが期待できるということも分かっているのです。これを読んでいる皆さんの中にも先ほど挙げたようなメリットがサウナにあるなんて知らなかったと言う人もかなり多いのではないのでしょうか。但し、単にサウナに入るだけではこれらの効能を得ることはできず、決まったルーティンというものがあります。そこで本書には、医師でありサウナーでもある加藤さんがサウナの効用を医学的にひもとき、多くの人に楽しく安全にサウナを活用していただくための方法を記してくれています。サウナ初心者の方から熟練のサウナーまで満足していただける素晴らしい内容となっているので、ぜひ本書をきっかけとして日常生活の中でサウナを導入したり、自分にとって最高のサウナの入り方を作り上げてみてください。



過去にも先輩方が紹介した
作品がたくさんあります。
ぜひ手に取ってみてください。

著作権ってなんだろう

皆さんは著作権をご存じですか？

実は、著作権があることによって著作者や著作物、著作物を伝達する者などの権利が守られています。また、著作者の権利は申請をしなくても著作物を創造した時点で自動的に付与されます（一般に無方式主義と呼ばれる）。とても複雑な制度ですが、皆さんの生活に密接にかかわっていますので、少しだけ紹介します。

著作物＝「思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもの」と定義されています。

創作性がなくありふれたものや表現されていないアイデアは著作物には該当しません。

例えば、一般の著作物には小説、講演、論文、音楽、美術、映画、コンピュータ・プログラム、データベースなどがあります。

著作権の中には「著作者の権利」があり、その中には「著作権（財産権）」というものがあります。

「著作権（財産権）」には複製権、上演権、演奏権、上映権、公衆送信権、公の伝達権、口述顕、展示権、譲渡権、貸与権、頒布権、等々があります。

これらの「〇〇権」の意味は他人が「無断で〇〇すること」を止めることができる権利（許諾権）です。

この中で皆さんが学校でふれることが多い複製権について少しふれたいと思います。

複製権は「無断で複製されない権利」です。

複製＝（手書き、印刷、写真撮影、複写、録音、ハードディスクへの蓄積など）

でも皆さん無断でコピーをしたり、写真をとったりしたことがありますよね？

では、どのような場合でも了解を得ないと利用できないのでしょうか。

答えはNoです。著作権の保護期間が満了している場合や「権利制限規定による例外」の場合などは許可を得なくても使用することができます。また、ビジネス上のルールを守ると使用できる仕組みもあります。

権利制限規定（一部紹介）※それぞれ細かな条件があります。

○私的利用のための複製（第30条）

自分や家族が限られた範囲で使用するために本などをコピーすることができます。

○学校その他の教育機関における複製等（第35条）

先生や学生が授業で使用するためにコピーができます。

○図書館等における複製等（第31条）

図書館において一部分（著作物全体の半分以上）コピーすることができます。



カメラで複製した場合、それをWEB上に公開したり、他の人に送ると公衆送信権違反になる場合があるので、注意しましょう。



著作権法の目的は「文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もって文化の発展に寄与すること」（第1条）となっています。

単に利用を制限するだけではなく、「文化の発展」も目的となっています。ルールを守りながら著作物を利用し、文化の発展に貢献しましょう。（図書館情報係・八頭司記）

著作権の保護期間が満了した作品を掲載している「**青空文庫**」というサイトもあるよ。（OPACのタグからも検索可）



分からない時は**文化庁のHP**を見たり、関係の団体に問い合わせてみましょう。

（子ども向けコンテンツからみるのもよし。）

関係団体例：全般-CRIC、音楽-JASRAC

マンガや動画でこのような標記を見たことはありませんか？



クリエイティブコモンズライセンス



2022年有明高専美術ギャラリー作品介绍

絵画



『矩手水門』
小柳 規久絵



『帰る』
奥苑 和司



『窯出しII』
藤吉 美保子



『郁子』
上村 恵子



『春が来た』
木村 和子



『祭の日』
石井 保



『万田坑』
牟田 英昭



『コロナ禍・ルージュ』
横山 多佳枝



『未来へ・・・』
木戸 直道



『マテラ』
岩本 久子



『水辺のお散歩』
永井 正文



『ドナウベントの午後』
松尾 正勝



『白蓮の花咲く頃』
牟田 志津子



『朝陽阿蘇』
加治屋 陸



『河口の船着場』
堤 和則



『蒼道』
塚本 和美



『アンスリューム』
田中 栄



『筑後の秋』
西川 正人



『屋下がりの時間』
河島 房子



『阿蘇』
松尾 忠之



『椿の里』
黒田 満里子



『流れ』
清水 正敬



『消えゆく立杭』
寺田 晃洋



『曼陀羅』
皆島 万作

写真



『ファンタジー』
田中 浩久



『冬の朝』
藤崎 聖二



『最後にみた大蛇』
鈴木 安徳



『がまだしもん』
高口 博文



『無限列車』
今村 誠二



『同級生』
渡邊 精之

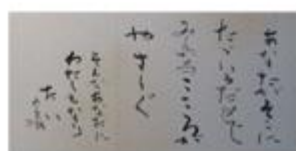


『マイハウス』
ふるいけ博文



『憩いの時』
浦田 碩也

書



『あなたがそばにただで』
川口 少音



『「篆刻」雨降地上湿』
川井 昌子 (遥水)



『固唾』
境龍井



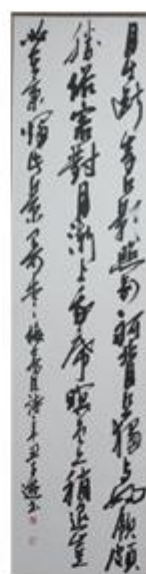
『道元禅師の歌』
小柳少鼎 (和孝)



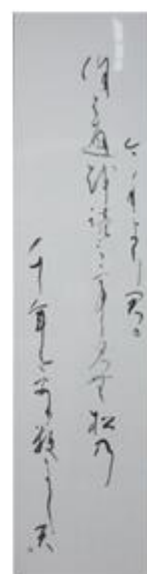
『不一』
山口 八石



『春天的小河』
中本 管城



『梅堯臣詩舟中夜與家人飲』
近藤 子遊



『良寛の歌』
山下溪泉 (溪子)



『去来の句』
松尾 理恵子

私のイチオシ【番外編】



その落とし物は誰かの形見かもしれない
せきしろ



妄想脳トレの
最終形態

山里亮太

集英社

落とし物の数だけ
物語がある。
奇々せきしろが
路上で本編に見つけた
落とし物をめぐる
50の妄想エッセイ

私は、この冬休みに庭に生えている草を大いにむしった。夏場、繁栄を極めた草たちは、枯れて色をなくしてはいたが、作業は困難を極めた。センダングサの実が軍手にも衣類にも引っ付くのだ。しかも、チクチクして痛い。もし私が、衣類に付けてしまったセンダングサの実を、どこかへぽとりと落としたら、それは落とし物と言われるのだろうか。

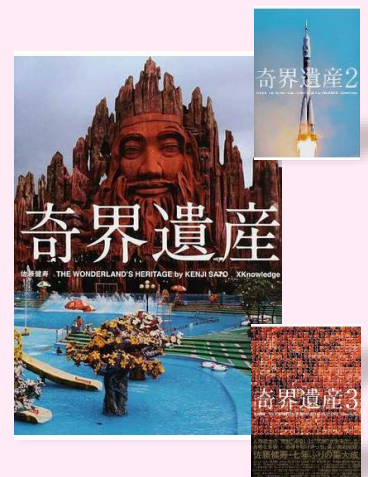
『その落とし物は誰かの形見かもしれない（せきしろ・著）』。この本は、著者が、行く先々で目にした落とし物について、その可能性を豊かに探った記録である。例えば、道に落ちている軍手を見て、著者はこう思う。「なぜそこに軍手があるのか？ 場所取り、決闘を申し込んだ形跡、軍手が好きだった友人へのお供えなど、いろいろ考えてみる。“この近くに手袋のなる木があるから”なんてファンタジー

なことも考える。また“変わり身の術”という考えもある。変わると言えば“姿を変えられた王子様”というのも考えられる。」なるほど。落ちている軍手にはこれほどの可能性があったとは。読んでいて思わず笑ってしまう。また、ハケが道に落ちていると、著者はこう思う。「今見ている風景がこのハケによって描かれたものであるような錯覚をさせてくれるのだ。」というのも、その発想の基には、オー・ヘンリーの短編小説「最後の一葉」——窓の外のツタの葉を見て「あの最後の一葉が落ちたら私は死ぬ」と言っている入院中の女性のために、画家が壁に葉の絵を描く話——のイメージがあるという。「もしかしたらこの歩道に敷き並べられたレンガの隙間から生えている草はこのハケによって描かれたものなのかもしれない。入院中の人“あの歩道に敷き並べたレンガの隙間から生えている草がなくなったら私は死ぬ”と言い出し、草が枯れてしまった、あるいは抜かれてしまったために年老いた画家が慌てて描いた、そんな想像ができる。草だけではない。入院中の人“あのガードレールがなくなったら私は死ぬ”と言い出して、年老いた画家が“まあガードレールならそう簡単になくならないだろう”と思っていたのに、その夜道路拡張工事が始まって撤去されたために慌てて描いたものだと思えてくる。」たしかに。どこまでが現実で、どこからが虚構か。その境目があやふやになる瞬間だ。

そういえば、以前、高尾山トリックアート美術館に足を運んだことがある。その名の通り“トリック”なアートに騙されまいと構えて入ったのに、ふと、植木鉢のそばに落ちている千円札を拾おうとしたら、床に描かれた絵だった。なんてこった。なんだか恥ずかしい。でも、奇妙で味わい深い場所だった。

“奇妙で味わい深い場所”なら『奇界遺産（佐藤健寿・著）』にも、たくさん紹介されている。表紙はベトナムのホーチミンにある「スイ・ティエン公園」だ。手前のプールよりも何よりも、とりあえず巨大な顔が気になる。シンガポールの「ハウパーヴィラ」には、青黒い甲羅をしたカニの身体に人間の頭が付いている像をはじめ、奇天烈な像が1000体以上あるらしい。台湾の金剛宮にある仏像も、目から腕が出て、その腕の手の平に目がある。うおお、実際に見てみたい。

COVID-19の影響下で移動が制限される中、人は皆、どんな風に過ごしているのだろう。どこかへ行きたい。でも、どこにでも行けるわけじゃない。そんな時、本を開けばそこには、異世界へとつながる道が、ぽっと現れるかもしれない。（図書館スタッフ 新里）



編集後記

さて、今回もたくさんの方に本を紹介していただきましたが、いかがでしたか。もし気になる本があったのなら、それはあなたに読まれるのを待っている本かもしれません。あなたの読書体験はあなただけのものです。あなたのタイミングで、あなたのペースで。図書館はいつでもあなたの来館をお待ちしております。最後に、お世話になった関係各位に心からの感謝の意を申し上げます。[同上 新里]



新